

「保育者としての視点」につながる豊かな保育記述
力を育む授業の検討:
「実習日誌」及び「保育者のための文章表現授業」
アンケートからの分析

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2021-02-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 井上, 真理子, 向笠, 京子, 長島, 万里子, 高橋, 優子, 伊藤, 路香, 上田, よう子, Inoue, Mariko, Mukasa, Kyoko, Nagashima, Mariko, Takahashi, Yuko, Ito, Ruka, Ueda, Yoko メールアドレス: 所属:
URL	https://senzoku.repo.nii.ac.jp/records/1943

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



「保育者としての視点」につながる 豊かな保育記述力を育む授業の検討

—「実習日誌」及び「保育者のための文章表現授業」アンケートからの分析—

The Study on Students' Writing Skills toward the point of view as Childcare
—Analysis from Training diary and Questionnaire in the Classes of
Writing Expression for Nursery School students—

井上真理子、向笠京子、長島万里子、高橋優子、伊藤路香、上田よう子
Mariko Inoue, Kyoko Mukasa, Mariko Nagashima, Yuko Takahashi, Ruka Ito, Yoko Ueda

1 研究背景と目的

保育は高度な専門性が必要とされる営みであり、保育者養成校においては専門職としての保育者を育てる実践的な授業が求められている。高嶋（2018、38）が「子どもを理解するということは、一人一人の子どもの表面にあらわれた言動や表現、しぐさなどから、その『意味』を探り、言葉にならない思いをも含めて、その内面を理解していくということ」というように、保育者が子どもを理解するときには、「できた」「できない」という視点ではなく、その子が内面でどのようなことを感じ、何が育っているのかということをとらえていくという「保育者としての視点」が必要となる。岡花ほか（2009）は「保育実践の記述によって保育者自身が抱える問題意識がより明確となり、その子（対象児）理解の枠組みが意識化される」と指摘しているが、保育実践を記述することは、保育を見つめ、整理することにほかならず、記述することを通して生の子どもをとらえ、理解することができるのではないだろうか。本研究では「保育者としての視点」につながりうるものの一つである保育実践を記述する力、すなわち子どもの育ちを的確に記録し、その姿を丁寧読み解いて記述する能力に着目し、それを「保育記述力」と名付けることとした。

全国保育士養成協議会の平成25年度専門委員会課題研究報告（松島ほか、2014）では、保育所、児童養護施設、乳児院に勤務する保育士、幼稚園教諭及び養成校教員がとらえている保育者の専門性を①基礎力②態度③保育者の専門的知識・技能の3つに分類し分析している。そのなかで保育者の「専門的知識・技能」は発達理解、保育に関わる基礎的事項、子どもの健康と生活、計画・評価、保育内容、特別な配慮が必要な子ども、家庭支援・地域連携の7分野から構成されており、保育記述力は「計画・評価」の項目のなかに含まれている。また、小木曾ほかは、「保育者にとって省察は成長と専門性の向上という意義があるが、そのためには言語化のプロセスが必要となる（小木曾ほか、2020、33）」と述べ、「保育者は保育記録を書いている＝言語化しているまさにその瞬間に、保育行為について省察をし

ている」と分析し、保育記録を書くこと自体が保育の質の向上に寄与する可能性について指摘している(小木曾ほか、2020、34)。これらの先行研究からは、保育者の専門性のなかに保育記述力が含まれていることや保育を記録することの意義が確認できる。そのほか、小笠原ほかは、全国の保育所及びこども園114園に、保育士が「養成校で身につけられる(身につけることが望まれる)『専門性』」について尋ねた結果「保育技術」(20.5%)「発達理解、子供理解」(18.5%)「指導計画・日誌の作成」(10.1%)の順に多かったことを明らかにしている(小笠原ほか、2017、88)。この報告からは保育記述力が保育者の専門性のなかに含まれており、さらにその能力は養成校で身につけることが望まれていることが示唆されている。

しかしながら近年、子どもの育ちを的確に記録し、その姿を丁寧に読み解いて記述することに課題をもつ保育学生が増えていることが指摘されている。松崎(2013)は保育学生の国語力の問題点をあげたうえで、特に修学年数の短い短期大学における保育学生の国語力育成の方法について、長野県の保育者養成短期大学6校のシラバスを分析している。そして結果をふまえて1年次に基礎科目で1コマ、2年次に専門科目で1コマを開講すること、その内容について提案している(松崎、2013、3-11)。そのほか、実習日誌の記述の困難さに関しては榎本が幼稚園教育実習における実習記録の困難さが少なくなるプロセスを学生の語りから明らかにしている(榎本、2017、19-30)。「実習は楽しいけれど記録は嫌」などの学生の声があり、実習日誌記述の困難さは「難しさ」のみならず「不安感」「負担感」「義務感」「嫌悪感」が含まれているとし、事前指導や園の指導を受動的に受けているだけでなく、様々なことを手がかりとしながら自ら行動することで、実習記録の困難さが少なくなると述べている(榎本、2017、29)。これらの先行研究は、養成校が保育学生の保育記述力の向上に取り組んでいる現状をあらわしているといえよう。

本学においても特に実習指導授業における実習日誌の記述において、子どもの姿や保育者の配慮を書き留められない、時系列で書くことが理解できない、どの事例を選ぶべきかわからない、実習目標の設定が難しい、適切な保育用語を使用できないなどの課題があがっており、保育記述力を高めることに向き合ってきた。

そのなかで「保育者としての視点」をもつ学生を育てることを第一に考え、実習指導授業において入

表1 「保育者のための文章表現授業」概要

<p>科目名:保育者のための文章表現</p> <p>【主題】 保育者は「書く」ことによって、子どもの姿や思い、自分の援助や意図を振り返りながら、保育を理解する。現場においては、保護者への連絡帳、園だより、指導計画の立案、担当クラスの保育記録、研修会参加後のレポートなど、文章を書く機会も多い。すなわち、保育者にとって「文章を書く」という営みは、その仕事の中核をなすものである。この授業では、保育者に求められる実践的な「文章で表現する」力を習得することを目指す。</p> <p>【到達目標】 ・保育現場で使用する保育用語や漢字を正しく理解し、活用できる力を習得する ・多様な文章に触れ、表現する基礎となる語彙を増やし、正しい文章構成を理解する ・見たこと、感じたこと、考えたことを適切な文章で表現できる力を習得する ・お礼状やプロフィール、履歴書等の社会人に求められる諸書類の作成の方法を習得する ・保育記録や指導計画の書式を理解し、作成方法の基礎を理解する</p> <p>【授業概要】 この授業では保育者を志す学生が必要な国語力を身に付けることができるよう、授業回ごとにテーマを決める。テキストと配布プリントを使って「読む力、要約する力、文章を書く力」の育成に取り組む時間のほか、以下の時間を設定し、総合的な国語力の向上を目指す。 ・漢字テストを毎回行うことによって、保育者として必要な漢字の知識が定着するようにする ・読書の時間を毎回設けることによって、幅広い内容の文章に触れクラスメイトと共有できるようにする ・保育用語のテストを定期的に行うことによって、保育者として必要な用語を活用できるようにする</p>
--

学直後に見学実習を実施し保育環境を体験的に学んだり、実際の保育場面を体感するため動画を活用した授業を導入したりするなど、段階的に保育実践力を学べるような授業を展開している。さらに、現場実習での学びを活用し、「保育者としての視点」を育てるために、授業科目を超えて連携し授業方法を工夫しており、毎年見直しをして改善に努めている。このような取り組みの一つとして、特に保育記述力を高めることを目的として2019年度に「保育者のための文章表現授業」を新たに導入した。この授業は従来「国語」という名称で広く短期大学生としての国語力・文章表現力を養う科目としてカリキュラム編成されていた授業を改変したものである。2019年度は、これまでの学生の保育記述に関する課題を解決するべくシラバスを編成し、授業資料を作成した(表1、表2)。

表2 「保育者のための文章表現授業」の各回の内容

回	前期授業内容	回	後期授業内容	
1	実習生ガイダンス、プロフィールの書き方	1	オリエンテーションの記録方法、基礎実習の振り返り	
2	保育用語の基礎、実習生プロフィールの作成	2	子どもの姿をとらえ記録する(2)生活の場面	
3	保育環境構成の書き方	3	実習園情報の書き方、事例と考察の書き方 レベル1:VTR	コース別
4	レポートの書き方	4	お礼状(封書)を作成する(1)幼稚園	コース別
5	基礎実習の記録の書き方、実習中のマナー	5	日々の目標の立て方、事例と考察の書き方 レベル2	コース別
6	生活をとらえ時系列で記録する、基礎実習記録のファイルの作成	6	教育実習Ⅰの自己評価、振り返り、教育実習Ⅰの経験の共有	
7	お礼状(はがき)を作成する	7	乳児の遊び、生活場면을記録する、教育実習Ⅰの学びの整理	
8	子どもの姿をとらえ記録する(1)遊びの場面、体験実習の記録の振り返り	8	子どもの姿をとらえ記録する(3)一日の保育のなかで:VTR	コース別
9	子どもの発達をとらえ分析する(1)遊びの場面	9	保育者の援助、意図を理解し記録する 生活の場面:VTR	コース別
10	時系列の記録の書き方(1)保育者の援助を理解し記録する 遊びの場面:VTR	10	保育所実習における事例と考察の書き方:VTR	コース別
11	時系列の記録の書き方(2)保育者の意図を理解し記録する 遊びの場面:VTR	11	子どもの発達をとらえ分析する(2)生活の場面、教育実習日誌を使って学びの共有	
12	お礼状(暑中見舞い)を作成する	12	部分実習指導案の基礎(4)生活の場面、事例と考察の書き方 レベル3:VTR	
13	部分実習指導案の基礎(1)絵本をテーマに	13	部分実習指導案の基礎(5)乳児の活動	
14	部分実習指導案の基礎(2)指導案を書く	14	お礼状(封書)を作成する(2)保育所	
15	部分実習指導案の基礎(3)添削・模擬保育	15	履歴書の書き方	

初年度を終えて授業担当教員は、授業中の学生の反応や提出物などから彼らの保育記述力の向上に一定の手応えを感じていたものの、保育現場実習において保育記録をする際にどの部分に困難を感じていたのか、授業がどのように役立っていたのか、また、どのようなことが足りなかったのかについての詳細を把握することの必要性を感じている。ただし「保育記述力」の向上については教員の主観として感じられるもののそれを計量的に把握することは困難である。学生の主観としての「実習日誌の記述に対する負担感・困難感」と本質的な「保育記述力」との関連は明確とはいえない。しかしながら、保育記述において書くことと子どもを理解することは連動しており(岡花ほか、2009)、保育実習における日誌記述への困難感には保育を「見ることができない」「理解を深めることができない」ことにつながるといえる。そのような考えから、本研究では、「保育者としての視点」につながる豊かな保育記述力を育むための効果的な授業方法や内容を検討するため、学生の実習日誌記述に関する困難感を把握すること及び「保育者のための文章表現授業」の効果を明らかにすることを目的とした。

三

2 研究方法

2-1 仮説と分析の枠組み

学生の実習日誌記述に関する困難感を把握し、「保育者のための文章表現授業」の効果を明らかにするにあたって日々の授業実践から浮かび上がってきたリサーチクエスチョンと仮説は以下の3点である。

- ① 実習経験を重ねるにつれ学生の日誌記述への困難感が軽減していくのかどうか
- ② 保育者のための文章表現授業の効果には、入学前の国語力・文章表現力が影響するのかどうか
- ③ 保育者のための文章表現授業の効果には、学校生活への満足度、将来の職業として保育者を志望する度合いの強さが影響するのかどうか

①に関しては、1年次の現場実習として10月の幼稚園実習、2月の保育所実習がそれぞれ2週間設けられているなかで、初回の実習日誌記述と比較し2回目のほうが形式、内容ともに慣れ、困難感が軽減しているのではないかと予測する。

②に関しては、「保育者のための文章表現授業」において保育に関わる記録や記述の練習、保育用語、保育に関する漢字を扱ううえで、学生の入学前の国語力・文章表現力の差が授業効果に影響を与えるのではないかと予測する。

③に関しては、「保育者のための文章表現授業」は保育に関わる事例を主に扱い、実習日誌記録に役立つようにすすめられるため、養成校に在学していること自体の満足度と将来保育者を志望する度合いが強い学生ほど、授業効果が高くでるのではないかと予測する。

本研究では、これらのリサーチクエスチョンを明らかにするため、実習日誌に関するアンケート及び「保育者のための文章表現授業」に関するアンケートを実施した。また、本研究の分析の枠組みは、以下のように図式化される。(図1)

実習日誌に関するアンケートは学生の実習日誌記述に関する困難感について時系列の記録、事例と考察、実習の振り返りと目標設定、部分実習に関することに分野を分けて、実習指導担当教員が質問項目を考えて作成した。このアンケートにより学生の各実習の実習日誌記述においてどの部分に困難感を抱いているのかを明らかにする。さらに同じアンケートを2回実施し比較することで、1回目の実習の日誌と2回目の実習の日誌の困難感の差を検証することを目指す。そのほか、このアンケートには日誌に関して「保育者のための文章表現授業」が「役に立ったこと」「教えて欲しかったこと」についての自由記述欄を設け、学生の感想の詳細を把握するとともにデータ分析による全体の傾向の解釈を補うことができるようにした。

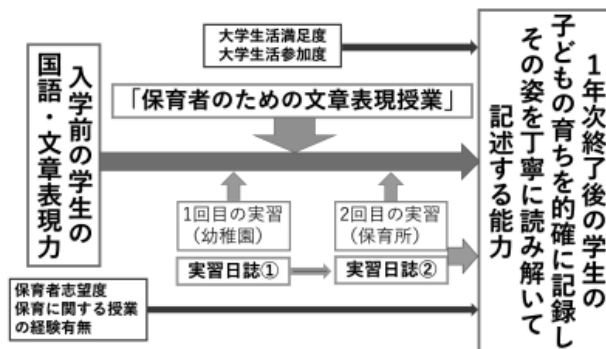


図1 分析の枠組み

「保育者のための文章表現授業」に関するアンケートは授業の評価を測る設問として、授業目的と照らし合わせ、実習日誌の記述に関して「時系列の記録に役立った」「子どもの姿を書くことに役立った」「保育者の姿を書くことに役立った」「実習の目標を設定することに役立った」「実習の振り返りを書くことに役立った」「事例・考察を書くことに役立った」「保育用語の理解に役立った」「保育の漢字を書くことに役立った」の8項目を設定した。さらに、授業評価の規定要因となりうるものとして学生の大学入学前の国語力・文章表現力や保育者志向度、大学入学前の保育関連授業の経験有無、大学生生活への満足度、大学生生活への参加度、実習への満足度、実習期間の心身の健康度を設問に設定し、それらが授業効果にどのように影響しているのかを分析できるように設計した。後者のアンケートでは、長谷川(2011、188)が現職教員に対して行った大学時代の授業の教育効果を測定するアンケートを参考に設問を設定し、授業がどのような学生にどのような効果をもたらすのかを検証することを目指す。

2-2 調査対象と手続き

アンケートは短期大学1年次学生262名に対し実施した。第1回のアンケートは幼稚園における実習終了後の2019年11月に紙面により実施し、第2回は保育所における実習終了後の2020年6月にGoogleフォームにより実施した。実習日誌に関するアンケートの内容は、第1・2回共通のものは日誌に関する質問で、時系列の記録について11項目(表4)、事例と考察について6項目(表4)、実習の振り返りと目標設定について5項目(表4)、部分実習について2項目(表4)、日誌作成についての自由記述(表6-9)である。第2回のみの内容は、文章表現の授業に関する8項目(表5)、入学前に関する7項目(表5)である。本研究では、計3種類のアンケート全てに回答した学生のうち、アンケート内容を研究に活用することに同意した126名(回答率48.1%)のデータをもとに分析をすることとした。なお、対象学生は、全員女性である。

2-3 研究における倫理的配慮

本調査の目的、回答することによって個人が特定されるなどの不利益が生じないこと、プライバシーの保護には最善の注意を払うことを第2回のアンケート実施の際に依頼文書で説明し、同意を得たもののみを調査対象とした。学生への説明書には「アンケートの内容によって成績が変わることは一切ない」ことを明確に記載した。分析に際しては、統計的に処理し、個人が特定できないようにして秘密を厳守した。

五

3 結果と考察

3-1 データ分析の結果

ここでは、まず実習日誌に関するアンケートの結果を分析する。表3は実習日誌記述の感想を「1. とてもあてはまる、2. ややあてはまる、3. どちらともいえない、4. ややあてはまらない、5. 全くあてはまらない」で聞いた全項目を、1回目実習後の平均点の昇順で示したものである。設問は実習日誌記述の困難感を聞くものと、それ以外のものに分けられる。

表3 実習日誌記述の感想 (1回目実習後の回答昇順一覧)

設問		1回目実習後 平均	2回目実習後 平均
	深い考察が難しい	1.55	1.56
高い ま る 度 合 い が	あ 時間がかかる	1.73	1.50
	て 部分実習は実践できた※	1.73	1.87
	は 事例と考察が大変だった	1.77	1.55
	ま 書きたいことを文章にすることが難しい	1.93	2.11
	る 部分実習を実施したいと先生へ伝えられたか※	2.05	1.84
	度 日々の目標設定は難しかった	2.20	2.20
	合 時系列の記録が大変だった	2.23	2.04
	い 事例を詳細に書くことが難しい	2.37	2.17
	が 保育者の援助の意図を読み取ることが難しい	2.46	2.17
		どこを削ったら良いかわからない(枚数が多くなる)	2.53
低い あ て は ま る 度 合 い が	考察の書き方がわからない	2.57	2.49
	どの場面を書いたら良いかわからない	2.65	2.46
	事例が書けない(思い出せない)	2.69	2.35
	実習目標に対する振り返りはできた※	2.70	2.40
	あ 実習前に立てた3つの目標を意識して目標設定できた※	2.78	2.76
	て どの事例を書いたら良いかわからず、適当に選ぶ※	2.79	2.77
	は 実習振り返りの書き方がわからない	2.84	2.96
	ま 子どもの興味・関心を捉えて書けない	3.00	2.61
	る 保育者の姿が思い出せない	3.11	2.64
	度 内容は充実させることができた※	3.14	3.02
合 課題発見までできなかった	3.14	3.22	
い 子どものしていた行動を思い出して書けない	3.56	2.83	
が 子どもの姿が思い出せない	3.66	2.63	
※は、「実習日誌記述の困難感を問う項目」以外の設問		n=126	

困難感を聞いた設問のうち、最も平均点が低い、つまりあてはまる度合いが高い項目は「深い考察が難しい (平均 1.55)」で、次に「時間がかかる (平均 1.73)」、「事例と考察が大変だった (平均 1.73)」、「書きたいことを文章にすることが難しい (平均 1.77)」の順であった。困難感を聞いた設問のうち、1・2回の実習終了後ともに平均点が2.5より低い設問は「深い考察が難しい」「時間がかかる」「事例と考察が大変だった」「書きたいことを文章にすることが難しい」「日々の目標設定は難しかった」「時系列の記録が大変だった」「事例を詳細に書くことが難しい」「保育者の援助の意図を読み取ることが難しい」の8項目であった。

次にリサーチクエスションである「①実習経験を重ねるにつれ学生の日誌記述への困難感が軽減していく」のかどうかを検証するために、1回目実習終了後と2回目実習終了後のアンケート回答平均点の差が統計的に有意かどうかを確かめる t 検定を行った。有意水準 5%で両側検定の t 検定を行ったところ、9項目で有意に差があることがわかった。ただし、そのうち8項目では困難感がかえって増していた (表4)。

六

時系列の記録に関しては、「子どもの姿が思い出せない ($t(120)=8.940, p<.001$)」、「子どものしていた行動を思い出して書けない ($t(120)=7.253, p<.001$)」、「子どもの興味・関心を捉えて書けない ($t(120)=3.787, p<.001$)」、「保育者の姿が思い出せない ($t(120)=3.943, p<.01$)」、「保育者の援助の意図を読み取ることが難しい ($t(120)=2.592, p<.05$)」、「時間がかかる ($t(120)=2.741, p<.01$)」の6項目で1回目と比較し2回目の実習終了後に有意に平均点が低かった。つまり、困難感が増しているという結果であった。

事例・考察に関しては、「事例と考察が大変だった ($t(120)=2.217, p<.05$)」、「事例が書けない (思い

出せない) (t(120)=3.055, p<.01)」の2項目で、1回目と比較し2回目の実習終了後に有意に平均点が低く、困難感が増しているという結果であった。

実習の振り返りと目標設定に関しては、「実習目標に対する振り返りはできた (t(120)=2.845, p<.01)」の項目で有意に2回のアンケート平均点に差があり、1回目実習終了後が2.70点、2回目実習終了後が2.40と困難感が軽減していたことがわかった。

表4 実習日誌感想の1回目実習終了後及び2回目実習終了後の平均点のt検定結果

設問		1回目 実習後 平均	2回目 実習後 平均	t 値	自由度	p
時系列 の記録	時系列の記録が大変だった	2.23	2.04	1.633	120	
	子どもの姿が思い出せない	3.66	2.63	8.940	120	***
	どの場面を書いたら良いかわからない	2.65	2.46	1.625	120	
	子どものしていた行動を思い出して書けない	3.56	2.83	7.253	120	***
	子どもの興味・関心を捉えて書けない	3.00	2.61	3.787	120	***
	保育者の姿が思い出せない	3.11	2.64	3.943	120	***
	保育者の援助の意図を読み取ることが難しい	2.46	2.17	2.592	120	*
	書きたいことを文章にすることが難しい	1.93	2.11	-1.467	120	
	時間がかかる	1.73	1.50	2.741	120	**
	内容は充実させることができた	3.14	3.02	1.170	120	
どこを削ったら良いかわからない(枚数が多くなる)	2.53	2.46	0.515	120		
事例 考察	事例と考察が大変だった	1.77	1.55	2.217	120	*
	事例が書けない(思い出せない)	2.69	2.35	3.055	120	**
	どの事例を書いたら良いかわからず、適当に選ぶ	2.79	2.77	0.206	120	
	事例を詳細に書くことが難しい	2.37	2.17	1.779	120	
	深い考察が難しい	1.55	1.56	-0.201	120	
考察の書き方がわからない	2.57	2.49	0.676	120		
実習の 振り返り と目標 設定	実習振り返りの書き方がわからない	2.84	2.96	-1.038	119	
	実習目標に対する振り返りはできた	2.70	2.40	2.845	120	**
	課題発見までできなかった	3.14	3.22	-0.646	119	
	実習前に立てた3つの目標を意識して目標設定できた	2.78	2.76	0.245	119	
日々の目標設定は難しかった	2.20	2.20	0.000	118		
部分 実習	部分実習は実践できた	1.73	1.87	-1.100	119	
	部分実習を実施したいと先生へ伝えられたか	2.05	1.84	1.711	119	

n=121 *** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05

続いてリサーチクエスションの「②保育者のための文章表現授業の効果には、入学前の国語力・文章表現力が影響すること」及び「③保育者のための文章表現授業の効果には、学校生活への満足度、将来の職業として保育者を志望する度合いの強さが影響すること」を検証するために、「保育者のための文章表現授業」に関するアンケートを重回帰分析により検証した。「保育者のための文章表現授業」に関するアンケートを重回帰分析により検証した。「保育者のための文章表現授業」評価として、「時系列の記録に役立った」「子どもの姿を書くことに役立った」「保育者の姿を書くことに役立った」「実習の目標を設定することに役立った」「実習の振り返りを書くことに役立った」「事例・考察を書くことに役立った」「保育用語の理解に役立った」「保育の漢字を書くことに役立った」の8項目をそれぞれ重回帰分析した結果、「時系列の記録に役立った」「子どもの姿を書くことに役立った」「保育者の姿を書くことに役立った」「事例・考察を書くことに役立った」「保育の漢字を書くことに役立った」の5項目において回帰式が有意であった。それぞれの重決定係数、回帰式の有意水準、独立変数から従属変数への標準偏回帰係数ベータは表5に示す通りである。

表5 「保育者のための文章表現授業」評価の規定要因

	時系列の記録に役立った		子どもの姿を書くことに役立った		保育者の姿を書くことに役立った		事例・考察を書くことに役立った		保育に関する漢字を書くことに役立った	
	β	p	β	p	β	p	β	p	β	p
【入学前から】書くことは得意だ	0.075	n.s.	0.128	n.s.	0.107	n.s.	0.040	n.s.	0.027	n.s.
【入学前から】読書が好きだ	0.032	n.s.	0.012	n.s.	-0.018	n.s.	0.007	n.s.	0.033	n.s.
【入学前から】漢字は得意だ	-0.038	n.s.	-0.192	n.s.	0.039	n.s.	-0.128	n.s.	-0.061	n.s.
【入学前から】コミュニケーションは得意だ	0.110	n.s.	0.158	n.s.	0.162	n.s.	-0.127	n.s.	0.054	n.s.
【入学前から】長い作文を書く機会があった	-0.082	n.s.	-0.109	n.s.	-0.087	n.s.	-0.143	n.s.	0.078	n.s.
【入学前から】図書館に月に1回以上行く	-0.076	n.s.	0.003	n.s.	0.080	n.s.	0.066	n.s.	-0.043	n.s.
【入学前までの】国語の成績は良かった	-0.072	n.s.	0.085	n.s.	-0.034	n.s.	0.133	n.s.	0.262	*
卒業後、保育者として働きたい	-0.034	n.s.	-0.203	n.s.	-0.037	n.s.	-0.138	n.s.	-0.142	n.s.
1年次の学校生活に満足している	0.228	*	0.176	n.s.	0.120	n.s.	0.139	n.s.	0.090	n.s.
1年次は学校生活に熱心に参加した	-0.067	n.s.	-0.059	n.s.	-0.128	n.s.	-0.014	n.s.	-0.068	n.s.
1年次に行われた実習に満足している	0.098	n.s.	0.221	n.s.	0.112	n.s.	0.389	**	0.316	**
実習期間は、身体は健康であった	0.233	*	0.061	n.s.	0.151	n.s.	0.006	n.s.	0.167	n.s.
実習期間は、心は健康であった	0.075	n.s.	0.074	n.s.	0.145	n.s.	0.091	n.s.	-0.259	*
入学前に、保育に関する授業の経験がある	0.186	*	-0.026	n.s.	0.102	n.s.	-0.079	n.s.	0.160	n.s.
F値	2.619		1.786		1.898		2.338		2.292	
回帰式全体の有意確率	**		*		*		**		**	
重決定係数	0.250		0.185		0.195		0.229		0.226	
自由度調整済み重決定係数	0.155		0.082		0.092		0.131		0.127	
n	125		125		125		125		125	
							** p<0.01		* p<0.05	

リサーチクエスション②である「保育者のための文章表現授業の効果には、入学前の国語力・文章表現力が影響すること」に関しては、「保育者のための文章表現授業の効果」には入学前の国語力・文章表現力の影響は大多数で確認されなかった。授業の5つの評価項目のうち「保育の漢字を書くことに役立った」のみ、「入学前の国語の成績」が影響していた ($\beta=0.262, p<.05$)。

他方でリサーチクエスション③である「保育者のための文章表現授業の効果には、学校生活への満足度、将来の職業として保育者を志望する度合いの強さが影響すること」に関しては、「時系列の記録に役立った」という授業評価項目に対しては「1年次の学校生活に満足している ($\beta=0.228, p<.05$)」が影響を与えていた。そのほかの要因として「実習期間は、身体は健康であった ($\beta=0.233, p<.05$)」、「入学前に、保育に関する授業の経験がある ($\beta=0.186, p<.05$)」も影響を与えていることが明らかになった。また、「事例・考察を書くことに役立った」という授業評価項目に対しては「1年次に行われた実習に満足している ($\beta=0.389, p<.01$)」が影響を与えていることがわかった。そして「保育に関する漢字を書くことに役立った」という授業評価項目に対しては前述した「入学前までの国語の成績は良かった ($\beta=0.262, p<.05$)」のほか、「1年次に行われた実習に満足している ($\beta=0.316, p<.01$)」が影響を与えていることが分かった。ただ、「実習期間は、心は健康であった ($\beta=-0.259, p<.05$)」という項目がマイナスの影響を与えていることも明らかになった。「子どもの姿を書くことに役立った」、「保育者の姿を書くことに役立った」という授業評価項目については影響要因として分析に使用した全ての項目で、統計的に有意な影響は確認されなかった。

3-2 データ分析の結果からの考察

本節では、前節のデータ分析の結果をリサーチクエスションごとに解釈し、考察を加えていく。

リサーチクエスチョン①

実習経験を重ねるにつれ学生の日誌記述への困難感が軽減していくのかどうか

まず、学生が実習日誌記述に関して困難感を抱いている部分としては、「深い考察が難しい」「時間がかかる」「事例と考察が大変だった」「書きたいことを文章にすることが難しい」「日々の目標設定は難しかった」「時系列の記録が大変だった」「事例を詳細に書くことが難しい」「保育者の援助の意図を読み取ることが難しい」が特に強いことが明らかになった。これらは実習指導担当教員にとっても日々の授業のなかで感じられる部分であったため、「保育者のための文章表現授業」でも1コマ以上費やして取り組んでいる部分である。

1回目と2回目の実習日誌を比較すると、困難感が軽減している項目は「実習目標に対する振り返りはできた」1項目のみであった。他方で時系列の記録に関して「子どもの姿が思い出せない」、「子どものしていた行動を思い出して書けない」、「子どもの興味・関心を捉えて書けない」、「保育者の姿が思い出せない」、「保育者の援助の意図を読み取ることが難しい」、「時間がかかる」、事例・考察に関して「事例と考察が大変だった」、「事例が書けない（思い出せない）」では困難感が増していることが明らかになった。これらの結果から、仮説はほぼ否定されたといえよう。

実習指導授業や「保育者のための文章表現授業」、その他の専門科目を履修することによって初回の実習と比較し2回目の実習では実習日誌の形式、内容ともに慣れて困難感は軽減すると予測していたが、反する結果となった理由を考察したい。

一つには、2つの現場実習を終了し2年次に進級する際に、初めての現場実習を夢中で経験した時と異なり、2回目の体験となった保育現場の厳しさや自分の保育技術の未熟さなどの現実に直面し、「このままではいけない」と自己に対する要求水準が上がったことが推測される。「困難感が軽減されていない」ように見える部分には、困難感の質が変化している可能性がある。

もう一つには、1回目と2回目の実習施設の違いである。1回目の実習が幼稚園、2回目が保育所であるので、2回目の現場実習といえども初めて経験する種類の施設であるため、1回目の経験からの積み重ねとはいかなかった可能性が考えられる。また、幼稚園は全体を見ることを要求される傾向、保育所は複数担任の中で、全体よりも一人ひとりとかかわってみることを求められる傾向があり、学生が立ち位置に戸惑ったり、日誌の書き方の違いに悩んだりする可能性も考えられよう。加えて、幼稚園と比較し保育時間が長い保育所では、時系列の記録に困難さがあった可能性も否定できない。

九

リサーチクエスチョン②

保育者のための文章表現授業の効果には、入学前の国語力・文章表現力が影響するのかどうか

本分析では「保育者のための文章表現授業」の効果には、入学前の国語力・文章表現力とはほぼ関連がないことが明らかになった。ただし、「保育の漢字を書くことに役立った」のみ「入学前の国語の成績」が影響していた。学生の入学前の国語力・文章表現力の差が授業効果に影響を与えるのではないか

との予測、そうであるとすれば入学時点の国語力・文章表現力による能力別クラス分けがより効果的な授業のために考えられるのではないかと考えは否定された。このことから、授業によって「時系列の記録」「子どもの姿を書くこと」「保育者の姿を書くこと」「事例・考察を書くこと」が身に付いたという自己評価には国語科が好きだったり、文章が得意だったりすることと関連はないことが明らかになった。クラス分けをする際にも、入学時点での成績による能力別クラスは導入の意義がない可能性が示唆される。

リサーチクエスチョン③

保育者のための文章表現授業の効果には、学校生活への満足度、将来の職業として保育者を志望する度合いの強さが影響するのかどうか

リサーチクエスチョン③に関しては、仮説の一部で支持される結果となった。学校への満足度、保育者志望度は「保育者のための文章表現授業」の効果の一部に影響を与えており、養成校に在籍していること、行われる授業や正課外活動に満足している学生であること、高校の時点で保育の授業を選択するような保育者志望度の高い学生であることは、授業の効果に関連することが示唆される。そのほかにも、幼稚園や保育所における現場実習に満足している学生であること、実習期間に体調を整える学生であることも、充実した授業に関連することが示唆される。一方で、実習期間に心の健康度が低い傾向のある学生は、授業効果を感じられないことに関連することが示唆される結果となった。

3-3 日誌記述に関する「保育者のための文章表現授業」への感想【自由記述】の分析及び考察

本節では、実習日誌に関するアンケートにおける自由記述欄「保育者のための文章表現授業」で①役にたったこと、②教えてほしかったこと、についての回答を整理し、考察を試みる(表6-9)。

① 役にたったこと

1回目の現場実習である幼稚園実習終了後のアンケートの自由記述を検討した結果、表6のように分類された。日誌の書き方については、「事例と考察の書き方、練習が役に立った(17件)」が最も多かった。考察の書き方の授業の工夫として、実際の保育場面を体感するため動画を作成し、それを活用した授業では、ビデオを見てイメージをしたうえで、書く練習をしている。「DVDやビデオを見て書く練習が役立った(3件)」という回答もあり、保育実践力を学べるような視覚教材の活用や演習は効果があったと考えられる。次に「見本を提示してくれたのでどんな風には書けばよいかを理解することができた(4件)」「言葉遣いのプリントが役に立ちました(4件)」「例のあるプリントを配布して説明してくれたので見ながら書くことができた(4件)」が多かった。初めての基礎実習では保育用語の基礎や保育環境の構成図、時系列の書き方などを学び、実習後は初回の長期の現場実習である幼稚園実習に向けての課題を整理している。幼稚園実習の前は、保育環境を記録する、子どもの姿をとらえ記録する、保育者の援助や意図を理解し記録するなど実習日誌の基本的な書き方について、授業では毎回、記入例や見本を提示し、書く練習をし、子どもの姿を発達の視点から捉え、保育者の援助の意図について

確認しながら修正することを繰り返している。このような見本を見ながら書く練習をすることで、実際の保育現場での保育経験が不十分な状態においても、基本的な保育の捉え方、基本的な書き方を段階的に理解し、実習の日誌作成の際に役にたったと推測される。

表6 1回目の現場実習である幼稚園実習終了後のアンケート自由記述「役にたったこと」

分類	自由記述	回答数	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の実習目標の例のプリントがあってよかった ・目標を事前に設定していたことでスムーズに目標設定ができた ・毎日の目標設定の立て方の授業での細分化のやり方が実習中の目標設定に役立った ・10個の目標を先に仮で立てていたのがとても役に立った 	2 2 1 1	
環境構成図	<ul style="list-style-type: none"> ・環境構成図の書き方が役立ちました 	2	
時系列の書き方	<ul style="list-style-type: none"> ・時系列でどのような所に注目したら良いのが役立った ・時系列の書き方が役立ちました 	2 1	
日誌の書き方	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子/実習生の動き 	1	
	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の動き 	1	
	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の配慮の書き方 	1	
	<ul style="list-style-type: none"> ・事例と考察 	17 1 1	
部分実習指導案	<ul style="list-style-type: none"> ・部分実習指導案の書き方が役立った ・指導案の記入例が特に有難かった 	3 1	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に日誌として書かれているプリントの表現や書き方が役立った ・見本を提示してくれたのでどんな風に書けばよいのかを理解することができた ・日誌の書き方をたくさんやったので書き方がわからないというのがなくなかった 	1 4 1	
文章に関する基本的な授業	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉遣いのプリントが役に立ちました ・書いてはいけない言葉や、書いてはいけない内容 ・文末の表現の書き方がわかった 	4 1 2	
学生同士で文章の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で配られた友達の実習日誌がとても参考になった 	3	
授業内容工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・例のあるプリントを配布して説明してくれたので見ながら書くことができた ・写真入りのテキストがよかった ・授業内で配られたプリントが役に立った ・書き方の例をたくさん教えてもらった。資料など ・年齢の発達をまとめたプリント、目標の例等が役に立ちました 	4 1 2 3 1	
	DVDや動画を使った実践的な授業	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の様子などのDVDやビデオを見て、書いたら書けたからすごく役だった ・映像を見ながら朝の様子の流れを記入するものが役に立った ・事例と考察をビデオでやって添削してくれて書き方も教えてくれたので思ったよりスムーズに書けた 	3 1 1
	他授業との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者論の事例考察がわかりやすかった 	1

2回目の現場実習である保育所実習終了後のアンケートの自由記述を検討した結果、表7のように分類され、「事例と考察の書き方が役に立ちました (34件)」が最も多かった。本学では、考察の書き方に力を入れ取り組んでいる。幼稚園実習の後には、保育所実習に向けて、低年齢児の事例と考察について、VTRを見てメモを取り、印象に残った場面を子どもや保育者の言葉や動き、表情を具体的に記録し、事実を客観的に書く練習をし、考察では事実から自分の考えを書きグループで共有している。また、保育所の特徴として、一つのクラスにおいてチームで保育をしているという特徴から、「保育者の姿の書き方などが役に立った (1件)」「複数人いる保育者に対しての日誌の書き方を書くことができた (1件)」なども自由記述としてあがってきている。さらに、幼稚園実習前と同様に、DVDや動画を使った実践的な授業について「様々な園の保育の様子を映像で見ること、広い視野と園の方針の理解につながった (1件)」「発達段階、個人差、障害を学んだこと、またそれを映像授業から学び、様々な視点からみる練習をしたこと (1件)」が役立ったという記述もあり、保育所実習においても実際の保育現場の映像を用いた授業は、疑似体験でき、考察の理解を深めたことが伺える。また「時系列の書き方のプリントや授業が参考になりました (5件)」や、「動画を見て時系列を書く練習をしたことが役に立った (1件)」という回答からも、映像授業は考察だけではなく、生活の流れを場面ごとに捉えると

表7 2回目の現場実習である保育所実習終了後のアンケート自由記述「役にたったこと」

分類	自由記述	回答数	
目標	・目標の立て方がわかりやすかった	1	
環境構成図	・環境構成の書き方が役に立った	3	
	・授業内容で、環境図の他に製作等の記載方法が役に立った	1	
	・見学実習や、教育実習 I を通じて、環境構成図の文字の入れ方の説明があったのがよかったです	1	
		1	
時系列の書き方	・時系列の書き方のプリントや授業が参考になりました	5	
子どもの様子/実習生の動き	・子どものどのような部分を見ればよいのか	2	
	・子どもの姿などの時系列の書き方などが役に立った	3	
保育者の動き	・保育者のどのような部分を見ればよいのか	1	
	・保育者の配慮点の書き方などが役に立った	2	
	・保育者の姿の書き方が役に立った	1	
	・複数人いる保育者に対しての日記の書き方を書くことができた	1	
事例と考察 日記 の 書 き 方	・事例と考察の書き方が役に立ちました	34	
	・事例と考察の書き方の授業がわかりやすく、書きやすかった	1	
	・どのような考察の仕方があるのかが役に立った	1	
	・事例と考察の書き方について授業でやってくれたので少し助かった	1	
	・事例と考察のシミュレーション、見方のポイント	1	
	・事例と考察の書き方をしっかり教えてくれたので、実習先で褒められることが多かった	1	
	・事例考察を教えて頂き理解することができて、細かく書くこととして時間はかかりましたが、自分で書くことができたので助かりました	1	
	・エピソード記録の書き方	1	
	・事例、考察の書き方のコツを授業で教えて下さったので1回目よりも2回目の実習の方が書きやすかった	1	
	部分実習指導案	・部分実習の指導案の書き方や日記の基本的な書き方を学ぶことができた	1
		・部分実習について指導案書く練習が役立ちました	2
		・部分実習の指導案の書き方を何回かに分けて教えていただけ、とてもわかりやすかった	1
・部分実習や責任実習の指導案の書き方について		1	
・指導案の書き方についてVTRを見ながら実際に書いたこと		1	
その他	・授業の見本が役に立った。日記の予行練習ができたので、本番になってますます書けました	1	
	・毎朝同じルーティンのところでは同じ内容を書く所を削るということが役に立った	1	
	・どこに視点を置いて考えるかなどがわかった	1	
	・書いてはいけない言葉など、保育者としての語彙力に関してとても役だったと感じました	1	
	・基本的な書き方が役に立った	1	
	・繰り返し日記の書き方を練習したこと	1	
		1	
文章に関する基本的な授業	・何回か実際に書いて見る授業があったので、どのように書くかイメージすることができた	1	
	・日記の基本的な書き方を丁寧に教えてもらったことが役に立ちました	4	
学生同士で文章の共有	・文章表現のビデオを見ながら事例考察や時系列で日記を書いていく授業では周りの人と共有することができ、自分の足りない部分を考えることができた	2	
授業資料	・フォランゲージや日記の書き方の例が載っているプリント、言葉遣いのプリントが役に立った	4	
授業 内容 の 工 夫	コース別	・コース別で目標に沿った注目ポイントの絞り方を意識したら比較的文章がまとまったのでとても書きやすかった	1
	DVDや動画を使った実践的な授業	・実際に幼稚園の子どもの様子を撮ったビデオを見ながら日記の書き方を学べたのがわかりやすく役に立った	1
		・文章表現の授業で日記の細かい指導を受け、指導案の書き方についてVTRを見ながら実際に書いたこと	1
		・事例と考察のビデオ	1
		・動画を見て時系列を書く練習をしたことが役に立った	1
		・様々な園の保育の様子を映像で見ることで、広い視野と園の方針の理解につながった	1
		・発達段階、個人差、障害を学んだこと、またそれを映像授業から学び、様々な視点から見る練習をしたこと	1
他授業との連携	・授業内容では環境と言葉の授業での内容が子ども理解と保育者の配慮、理解に役立ちました	1	

111
 いう他の記述にも有効と推測される。そして、本学ではグループワークや学生同士で日記を見せ合い添削し合うなど演習を積極的に取り入れている。佐藤（2015、53-72）の文章力を高める取り組みとして、書く作業と共に学生が書いた間違った表現を一緒に読んで訂正の仕方を練習している取り組みなどを行い、2回目の保育実習の日記は間違いが減ったといったことが報告されている。本学の授業においても、同じ場面について自分以外の学生の視点を共有したり、共有したうえで改めて同じ場面を視聴したりすることで、自分だけでは気づきにくかった多様な視点に気づいていけるような授業展開をしてきた。実際に「文章表現のビデオを見ながら事例考察や時系列で日記を書いていく授業では周りの人と共有することができ自分の足りない部分を考えることが出来た（2件）」という回答から、学生同士の意

見交換や学びの共有は保育記述力の向上に必要と考える。

さらに、本学では、今年度から1年生の文章表現の授業の中で「Basic」「Standard」「Advance」といったコース別の授業も展開している。「コース別で目標に沿った注目ポイントの絞り方を意識したら比較的的文章がまとまったのでとても書きやすかった（1件）」といった回答もあり、学生の保育記述力、保育を捉える力等課題に合わせたコース別授業については、今後さらに効果を検討していく必要がある。

② 教えてほしかったこと

1回目の現場実習である幼稚園実習終了後のアンケートの自由記述を検討した結果、表8のように分類され、「事例と考察をもう少し練習したかった（3件）」「深く考察するための考え方（3件）」が最も多かった。実際の実習においては様々なことが起き、そのことを豊かに表現し深く考察するには、書く経験をもっと積みたかったという思いがあったと推察される。また、学んだことをそのまま忠実にしようとするあまり「時系列で削ってよい部分（1件）」「一日の流れの省き方がよくわからなかった（1件）」「日誌のどこを省略すればよいかわからなかった（1件）」「日誌を書く時間を減らしたい（1件）」と、書く分量と時間に苦しみ、削る部分、ポイントを絞り方に苦慮した様子も見受けられた。2回目の現場実習である保育所実習終了後のアンケートの自由記述を検討した結果、表9のように分類され、「事例と考察の書き方についてもっと教えて欲しいです（11件）」が最も多かった。全体的に

表8 1回目の現場実習である幼稚園実習終了後のアンケート自由記述「教えてほしかったこと」

分類	記述例	回答数
目標	・目標に沿って日誌の記録の内容を取捨選択できず、わからなかった	1
	・日誌の日々の目標が難しかった	2
環境構成図	・園全体の環境構成図を書くのが大変でした	1
時系列の書き方	・時系列で削っていい部分	1
	・もっと事例の書き方を教わりたい	1
	・一日の流れの省き方がよくわからなかった	1
子どもの姿からの読み取り	・子どもの姿の選別の仕方を教えて欲しかった	1
実習生の動き	・実習生の動き、気づきの書き方がわからなかったため知りたかった	1
	・実習生の気づきなどをもっと細かく教えて欲しかった	1
日誌	・自由遊び以外のところを教えてほしい	1
事例と考察の書き方	・事例と考察をもう少し練習したかった	3
	・事例考察について、日誌で枚数が増えてしまうため、削る部分を教えて欲しい	1
	・事例と考察を毎日見つけるのが大変だった。内容が毎日似てしまったりする	1
	・言葉の言い回しや表現の仕方をもう少し教えて欲しかった	1
	・事例と考察に時間がものすごくかかってしまいました	1
	・深く考察するための考え方	3
	・授業で事例と考察の書き方を学んで、どのように書くかはわかったけれど、どの部分を切り取って事例と考察に書くか悩んだ	1
書く分量とポイントの絞り方	・日誌のどこを省略すればよいかわからなかった	1
	・日誌を書く時間を減らしたい	1
全体の構成の仕方	・日誌の添削練習などをやって欲しかったです	1
	・文の構成の仕方がわからなかったです	1
	・自由記述欄がよくわからなかった	1
見本からの学び	・いろいろな人が書いた日誌の例をもっと見てみたかった	1
その他	・日誌が園指定で違ったのでわかりません	1

表9 2回目の現場実習である保育所実習終了後のアンケート自由記述「教えてほしかったこと」

分類	記述例	回答数
目標について	・日々の実習目標の立て方や事例と考察の書き方について教えてほしかったです	1
	・目標の立て方などをもう少し教えてほしいです	1
ねらい	・ねらい、内容のレパートリーの例をもっと教えて欲しいと思います	1
	・ねらいと内容についてまだ理解しきれいていないので、もっと詳しく教えて欲しい	2
子どもの姿からの読み取り	・子どもの姿、気持ちを深く読み取り、的確な文章で記載するにはどうすべきかを教えて欲しい	1
	・資料映像からの読み取るポイントとその読み取ったことをどのように日誌に記入すれば良いのかを詳しく知りたかった	1
保育者の動き	・保育者の姿の書き方をもっと教えて欲しい	1
	・保育者の願いや意図について詳しく知りたかった	1
	・保育者の援助や配慮等深く読み取り、的確な文章で記載するにはどうすべきかを教えて欲しい	1
日誌の書き方	・事例と考察の書き方についてもっと教えて欲しいです	11
	・事例と考察を書くときに表現の仕方を教えてほしい	1
	・深い考察の仕方を教えて欲しい	3
	・事例と考察の書き方は教わったが、深く考察することや考えたことを文章にするのが苦手なのでその対策をしてほしい	1
	・部分実習指導案の書き方をもう少し詳しく学びたかった	1
書く分量とポイントの絞り方	・枚数に収めるために、日誌記入のコツ、保育中のメモの取り方がわからなかった	1
	・どの部分を削り、どの部分を書けばよいのがまだ難しい	2
	・日誌を書くのに時間がかかるので早く書けるコツとかをもっと教えて欲しい	1
	・睡眠不足で体調を崩しそうになるので、睡眠時間を確保できるように、日誌はど	1
具体的な見本からの学び	・言葉の表現、言い換えの仕方をもっと知りたかったこと	1
	・教えて欲しいかというより、どのように文章で書いて良いのが難しかった	2
	・例や見本がたくさんほしい	1
	・もっと日誌の書き方を具体的に教えて欲しいと思ったかもしれません	1
	・毎日書いていく中での注意点が知りたかったです	1
	・過去、実際に生徒が作成した日誌や事例考察の例を提示してほしい	1

「もっと」といった表現が散見されたことから考察をさらに深めたいという意欲の表れや、さまざまな意見から個人のレベルの違いなども考えられ、今後は、それぞれのレベルにあったきめ細やかな指導も必要と考えられた。今回、自由記述は任意であり、対象者数が少なかったため、今後対象者を増やし、詳細な検討が必要である。

4 知見の含意と今後の課題

本研究では「保育者としての視点」を養い豊かな保育記述力を育むための効果的な授業内容や方法を検討するため、学生の実習日誌記述に関する困難感を把握すること及び「保育者のための文章表現授業」の効果を明らかにすることを目的とし、学生にアンケート調査を行った。その結果から、より効果的な授業内容、授業方法として考えられることは以下の通りである。前章であげたりサーチクエスションの順に整理する。

- ① 実習日誌記述に関して「深い考察の仕方」、「適切な分量」、「事例の選び方、詳細な書き方」、「書きたいことを文章にあらわす方法」、「日々の目標設定の仕方」、「時系列の記録の方法」、「保育者の援助の意図を読み取る方法」についてはより丁寧に触れ、学生の理解度、定着度を測りながら

すすめること。

- ② 「子どもの姿や子どものしていた行動を読み取り、書き留めること」、「子どもの興味・関心を捉えて書くこと」、「保育者の姿を思い出して書くこと」、「保育者の援助の意図を読み取ること」、「適切な分量を知ること」、「事例・考察を書くこと」に関しては初回の現場実習である幼稚園実習と、2回目の現場実習である保育所実習の保育そのものや実習日誌記述の視点の違いをより丁寧に説明しそれぞれの実習の前にこれらすべての項目の演習を実施するようにすること。
- ③ クラス別授業を導入する際は、入学時点での成績による能力別クラスではなく、学生自らが保育者志望度や保育に関する授業経験の有無を基準に選択するようにすること、1回目の実習を終えた後には実習に対する思いに差が出てくる場合があるため、自分の課題に合わせたコース別のクラスの変更などを相談できる場を設定することも考えられる。

本研究では、学生の実習日誌記述に対する困難感の把握や保育記述力を高める授業内容・方法への一定の示唆を得ることができた。しかしながらアンケート回答を2019年度の1年次学生全員から得たわけではないこと、この後2年次の実習日誌記述にどのようにつながっていくかを見ていく必要があること、授業効果へ与える他の要因を検討する必要があることなどに課題が残る。また、「保育者としての視点」につながる保育記述力以外の専門性を向上する授業の在り方についても研究する必要がある。今後はこれらの課題について取り組み、「保育者としての視点」をもつ学生を養成する授業を行うことに挑戦し続けていきたい。

引用・参考文献

- 榎本真実 2017「学生が感じる実習記録の困難さに関する一考察：困難さが少なくなるプロセスに着目して」『東京家政大学研究紀要』57(1) 19-30
- 小笠原文孝・野崎秀正・大坪祥子・崎村英樹・木本一成・崎村康史・湯山樹里・石井薫 2017「保育現場の視点から捉えた『保育士の専門性』議論の再考」『保育科学研究』8 84-92
- 岡花折一郎・杉村伸一郎・財満由美子・松本信吾・林よし恵・上松由美子・落合さゆり・山元隆春 2009「『エピソード記述』による保育実践の省察—保育の質を高めるための実践記録と保育カンファレンスの検討」『広島大学学部・附属学校共同研究紀要』(37) 229-237
- 小木曾友則・長谷川哲也 2020「保育者の専門性と省察の原理に関する研究：『書く』という行為に注目して」『岐阜大学カリキュラム開発研究』36(1) 26-36
- 佐藤達全 2015「保育者を目指す学生の文章力を高めるための取り組みについて—保育実習Ⅰと保育実習Ⅱの実習日誌を比較して考える—」『育英短期大学研究紀要』32 53-72
- 長谷川哲也 2011「教職課程の教育効果をめぐる評価—現職教員の認識に注目して」『高等教育研究』14 185-205
- 松崎史周 2013「保育者養成短期大学における国語力育成のあり方」『清泉女学院短期大学研究紀要』31 1-11
- 松島京・利根川智子・油井宏隆・上垣内伸子 2014「保育者の専門性についての調査—養成課程から現場へとつながる保育者の専門性の育ちのプロセスと専門性向上のための取り組み—（第2報）」『専門委員会課題研究報告』全国保育士養成協議（2020年8月10日アクセス）http://www.hoyokyo.or.jp/profile/senmon/seminarreport_26.pdf
- 渡邊英則・高嶋景子・大豆生田啓友・三谷大紀 2018『シリーズ新しい保育講座 第1巻保育原理』ミネルヴァ書房